

【第1部】基礎 (Q1~Q20)

- Q1. ▶ 答え：ウ 「まほし」は希望（願望）を表す助動詞。
- Q2. ▶ 答え：ア 「たし」も「まほし」と同じく希望を表す。
- Q3. ▶ 答え：イ 「まほし」は未然形接続（例：あら+まほし）。
- Q4. ▶ 答え：エ 「たし」は連用形接続（例：見+たし）。
- Q5. ▶ 答え：ア まほし=シク活用型。たし=ク活用型と対で覚える。
- Q6. ▶ 答え：ウ たし=ク活用型（たく・たから／たく／たし／たき／たけれ）。
- Q7. ▶ 答え：エ どちらも命令形はない（活用表では「○」）。
- Q8. ▶ 答え：イ 「まほし」は未然形接続なので、ラ変「あり」の未然形「あら」。
- Q9. ▶ 答え：イ 「たし」は連用形接続だから、「見」は上一段「見る」の連用形。
- Q10. ▶ 答え：ア まほし=希望「～たい」。
- Q11. ▶ 答え：ウ まほし=古めかしく優美な文章で使われる。
- Q12. ▶ 答え：エ たし=「まほし」より後の時代の口語的な文章で使われる。
- Q13. ▶ 答え：ア 基本は自己の希望「～たい」。ときに他への願望「～てほしい」。
- Q14. ▶ 答え：イ 他への願望のとき「～てほしい」（例：先達はあらまほし=いてほしい）。
- Q15. ▶ 答え：ウ たし=希望「～たい」。話し手自身の希望。
- Q16. ▶ 答え：エ 終止形は「まほし」。きれいに形容詞シク活用型。
- Q17. ▶ 答え：イ 連体形は「たき」（例：見たき人）。
- Q18. ▶ 答え：ウ 未然形+まほし／連用形+たし。この一点が最重要。
- Q19. ▶ 答え：ア 「まほし」は未然形接続。四段の未然形はア段「住ま」。
- Q20. ▶ 答え：エ 「たし」は連用形接続。四段の連用形はイ段「乗り」。

【第2部】標準 (Q21~Q50)

- Q21. ▶ 答え：イ 未然形「言は」+まほし。
- Q22. ▶ 答え：ウ 連用形「聞き」+たし。
- Q23. ▶ 答え：ア サ変の未然形は「せ」。せ+まほし。
- Q24. ▶ 答え：エ カ変の未然形は「こ」。こ+まほし。
- Q25. ▶ 答え：ウ サ変の連用形は「し」。し+たし。
- Q26. ▶ 答え：ア ナ変の未然形は「死な」。死な+まほし。
- Q27. ▶ 答え：エ まほしは未然形接続なので「上ら」。
- Q28. ▶ 答え：イ たしは連用形接続なので「読み」。
- Q29. ▶ 答え：ウ まほしは未然形接続だから、この「見」は未然形と決まる。
- Q30. ▶ 答え：ア 上二段は未然形も連用形も「起き」で同形。接続のきまりから連用形と決まる。

- Q31. ▶ 答え：イ 「こそ」があると文末は已然形で結ぶ（係り結び）。
- Q32. ▶ 答え：エ 体言の前は連体形「まほしき」。
- Q33. ▶ 答え：ウ 接続助詞「ど」の上は已然形。
- Q34. ▶ 答え：ア 「ず」など助動詞に続けるときは「～から」の形（例：散らまほしからぬ）。
- Q35. ▶ 答え：イ 散ら（未然形）＋まほしから（未然形）＋ぬ（打消「ず」連体形）＝散ってほしくない。
- Q36. ▶ 答え：ウ 連用形「まほしく」の「く」が「う」に変わったウ音便。
- Q37. ▶ 答え：エ まほし＝「～たい」。「こそ～まほしけれ」は係り結び。
- Q38. ▶ 答え：ア あら（ラ変未然形）＋まほし＝「いてほしい」。
- Q39. ▶ 答え：イ 自分以外の「先達」がいてほしい＝他への願望の代表例。
- Q40. ▶ 答え：ウ 見（未然形）＋まほし＝見たい。
- Q41. ▶ 答え：エ ラ変の未然形は「をら」。をら＋まほし。
- Q42. ▶ 答え：ア 連用形「食ひ」＋たし。
- Q43. ▶ 答え：ウ 助動詞に続けるときは「たから」（例：帰りたいからず）。
- Q44. ▶ 答え：イ 下に体言「こと」が続くので連体形。
- Q45. ▶ 答え：エ 「こそ」の結びは已然形「たけれ」。
- Q46. ▶ 答え：ア 乗り（連用形）＋たし＝乗りたい。
- Q47. ▶ 答え：ウ 連体形は「まほしき」（例：あらまほしき事）。
- Q48. ▶ 答え：エ 形容詞と同じ型（まほし＝シク活用型、たし＝ク活用型）。
- Q49. ▶ 答え：ア 聞か（未然形）＋まほしう（連用形のウ音便）＝聞きたく。
- Q50. ▶ 答え：イ 下二段の連用形は「受け」。受け＋たし。

【第3部】応用（Q51～Q80）

- Q51. ▶ 答え：ウ 「めでたし」は「すばらしい」という一語の形容詞。「めで+たい」とは訳せない。
- Q52. ▶ 答え：エ 「越えにくい」の意。「越えたい」と訳せないので希望の助動詞ではない。
- Q53. ▶ 答え：イ 「見たし」＝見たい（助動詞）。「めでたし」は訳せない（一語の形容詞）。
- Q54. ▶ 答え：ア 「ばや」は未然形接続（例：見ばや）。
- Q55. ▶ 答え：エ 「もう一度見たい」。文末で言い切る願望の終助詞。
- Q56. ▶ 答え：イ 文末で「～たいものだ」と言い切る願望の終助詞。
- Q57. ▶ 答え：ウ 「もがな」は存在や状態を願う終助詞。
- Q58. ▶ 答え：ア 助動詞は形を変えながら文中でも使える点が終助詞との違い。
- Q59. ▶ 答え：イ 「得てしがな」＝終助詞、「見まほし」＝助動詞。両者が並ぶ有名な箇所。
- Q60. ▶ 答え：エ もがな＝「～があればなあ」という願望の終助詞。
- Q61. ▶ 答え：ウ 意味はほぼ同じで、時代・文体が違う。
- Q62. ▶ 答え：ア 下二段の未然形は「出で」。出で＋まほし。
- Q63. ▶ 答え：イ カ変の連用形は「き」。き＋たし。

- Q64. ▶ 答え：エ ナ変の連用形は「往に」。往に＋たし。
- Q65. ▶ 答え：ウ 「見」は未然・連用が同形。まほしなら未然形、たしなら連用形と助動詞側から決まる。
- Q66. ▶ 答え：イ 下二段「寝」は未然・連用が同形だが、「たし」は連用形接続なので連用形。
- Q67. ▶ 答え：ア まほしから（未然形）＋ず（打消）＝あつてほしくない。
- Q68. ▶ 答え：エ 形容詞と同じく、助動詞が続くときは「～から」の系列を使う。
- Q69. ▶ 答え：ウ あら＋まほし＝あつてほしい→理想的だ。
- Q70. ▶ 答え：イ 「あら＋まほし」＝あつてほしい・あるのが望ましい、が現代語に残った。
- Q71. ▶ 答え：エ まほしは未然形接続なので「散ら」。
- Q72. ▶ 答え：ア たしは連用形接続なので「帰り」。
- Q73. ▶ 答え：ウ 会ひ（連用形）＋たし＝会いたい。
- Q74. ▶ 答え：イ 下に用言「思ふ」が続くので連用形「たく」。
- Q75. ▶ 答え：エ 連用形＋たし／未然形＋まほし。意味はどちらも「行きたい」。
- Q76. ▶ 答え：ア 体言の前は連体形「たき」。
- Q77. ▶ 答え：ウ 「読み」は連用形。「てしがな」は連用形に付く。
- Q78. ▶ 答え：イ たし＝後の時代の口語的な文章。ウ・エはそもそも終助詞。
- Q79. ▶ 答え：エ 散ら＋まほしから＋ず＝散つてほしくない（他への願望＋打消）。
- Q80. ▶ 答え：ア 未然形「あら」＋まほし。体言「事」の前なので連体形「まほしき」。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

- Q81. ▶ 答え：エ 意味はほぼ同じ。違いは「接続」と「時代・文体」の二点。
- Q82. ▶ 答え：ウ 上り（連用形）＋たき＝上りたい。ア・イ・エは形容詞（の一部）。
- Q83. ▶ 答え：ア 連用形「まほしく」＋係助詞「は」＋あり。「見たくはあるけれど」の意。
- Q84. ▶ 答え：イ まほしは未然形接続なので「聞か＋まほし」が正しい。
- Q85. ▶ 答え：ウ 係り結び。「まほし」に付く「見」は未然形なのでエも誤り。
- Q86. ▶ 答え：エ 上ら（未然形）＋まほしけれ（已然形、「ど」の上）＝上りたいけれど。
- Q87. ▶ 答え：ア 住ま（未然形）＋まほしけれ（已然形）。
- Q88. ▶ 答え：イ 「ゆかし」は心が引かれる意の形容詞。助動詞「まほし・たし」ではない。
- Q89. ▶ 答え：エ 願望の終助詞は「ばや・もがな・てしがな」。ほかは助動詞。
- Q90. ▶ 答え：ウ まほしは未然形接続なので「知ら」。「まほしう」はウ音便。
- Q91. ▶ 答え：ア 已然形＋ば＝確定条件。「たし」に命令形はない。
- Q92. ▶ 答え：イ まかり（連用形）＋たけれ（已然形）＋ど＝参りたいけれど。
- Q93. ▶ 答え：エ 上一段「見る」の未然形「見」＋まほし。
- Q94. ▶ 答え：ウ 「まほしく」→「まほしう」。もとの形で活用形を判断する。
- Q95. ▶ 答え：ア あら（ラ変未然形）＋まほし＝あつてほしい、が現代語に残った形。
- Q96. ▶ 答え：イ 連用形「行き」＋たし／未然形「行か」＋まほし。

Q97. ▶ 答え：ウ 住ま+まほしけれ（「こそ」の結び）＝住みたい。

Q98. ▶ 答え：エ どちらも命令形はない。

Q99. ▶ 答え：イ 「ありがたし」＝めったにない（一語の形容詞）。「会ひたし」＝会いたい（連用形+助動詞）。

Q100. ▶ 答え：ア 接続の違いこそが両者を見分ける決め手。100題おつかれさまでした！